

バティックとは

インドネシアのバティック (batik) は、木綿布に手描きや型を使って文様を表わす更紗 (さらさ) の一種です。染料を直接布に塗るのではなく、色をつけたくない部分に溶かした蠟 (ろう) を塗ってから染める防染 (ぼうせん) という技法を使っているところに特徴があります。インドネシアではジャワ島を中心に長い伝統があり、江戸時代には日本にも輸入されてジャワ更紗の名前で愛好されました。

20 世紀にはいると、化学染料とプリント染色技術の発達で、大量生産された更紗が市場にあふれ、伝統的なバティック技法は衰退していきました。しかし、近年、再び伝統的な技法で作られたバティックの良さが見直されるようになりました。2009 年 10 月にインドネシアのバティックがユネスコの無形文化遺産に登録されたことも追い風になっています。

バティック製作過程



【洗い】
布の表面を滑らかにするために布地を洗い煮る。



【蠟落とし】
鋭いナイフやブラシを使い、蠟を布から落とし、さらに布を煮る。豊かな模様をつけるために、蠟置き以下のプロセスを繰り返す。



【下書き】 モチーフを鉛筆で下書きする。



色の濃淡を付けたい時には暗くする箇所には蠟置きをする。



【蠟置き】
細かいモチーフはチャンティンという道具で蠟置きをする。



色彩を豊かにし、特定のモチーフを浮き上がらせるためには筆を用いて染色する。



【蠟置き】
防染として色を染めない部分に蠟置きをする。



ジャワ内陸部のバティックに特有の茶色を出すために染色を行う。



【染色】
布を染料に浸して最初の染色を行う。

天然染料



藍
(Indigo)
木や葉から青色
が得られる。



ニオイマンゴー
(Daun Mangga
Kweni)
乾燥させた葉から
黄色が得られる。



パラミツ
(Kayu Nangka)
皮と幹や茎から
黄色の色が得ら
れる。



ヤエヤマアオキ
(Mengkudu)
果実や葉を生薬と
し、根から赤色の染
料が得られる。



モモタマナ
(Jelawe)
実を茹でると茶
色掛かった黄色
が得られる。



マホガニー
(Batang Mahoni)
木の皮から茶色掛
かった赤色が得ら
れる。



タカオコヒルギ
(Batang Tingi)
皮と木の幹から
ソガ(Soga)独特
の茶色が得られ
る。